

水産試験研究機関と現場との関わり

～地域に密接に関わり貢献できる水産海洋研究者の育成と
水産業の更なる発展を目指して～

水産海洋学会特別委員会若手・女性・地域活性化委員会

我が国の地方試験研究機関の成り立ち

- 水産講習所(水産研究・教育機構の前身)
 - 1897年開設
- 地方公設水産試験研究機関:いわゆる「水産試験場」
 - 愛知県を皮切り(1894年)に設置
 - 明治政府が近代国家を目指した農業・漁業施策の一環
 - 府県農事試験場国庫補助法(1899年「明治32年」交付)
 - 県に1水産試験場設置に対する補助

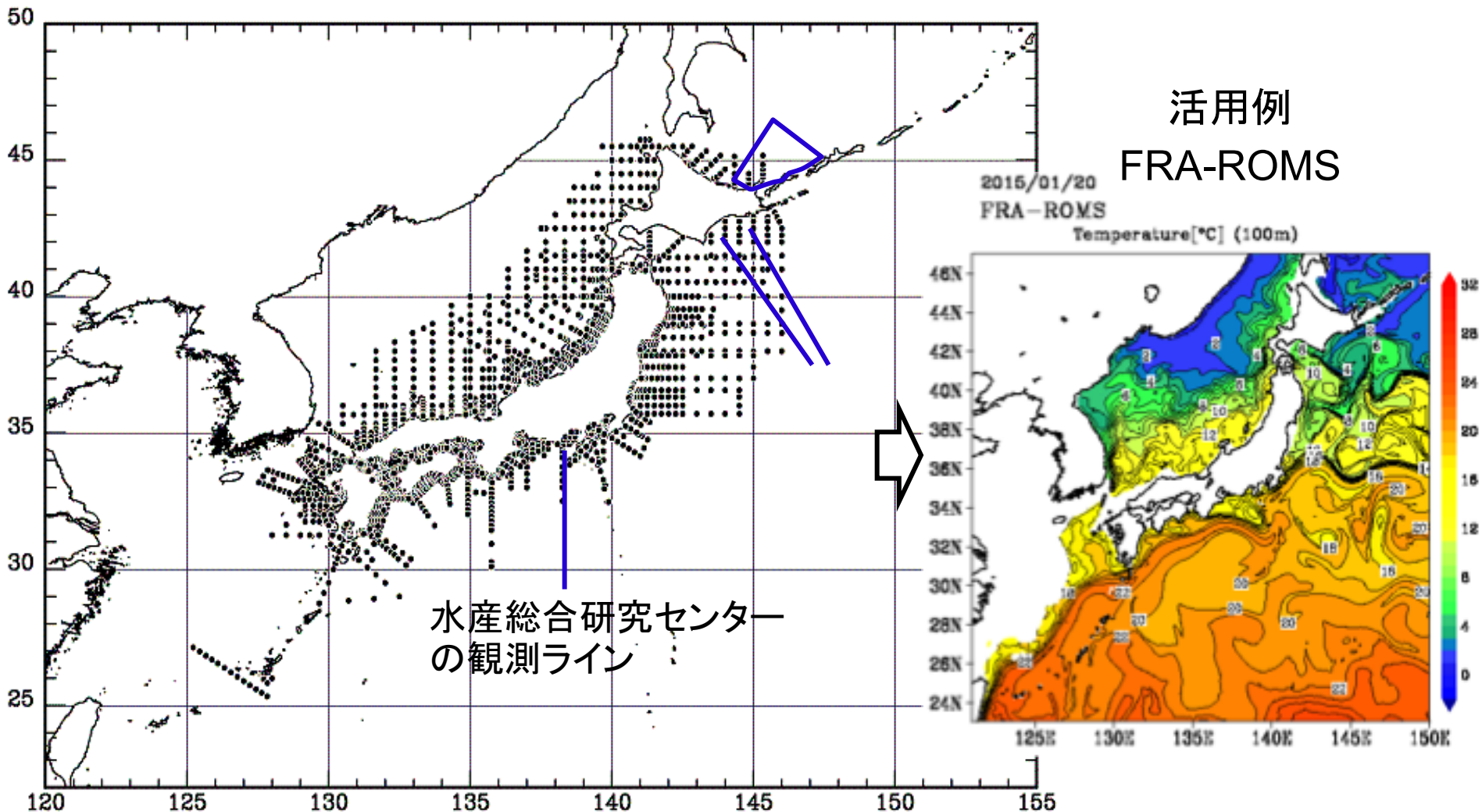


1904年頃までには全国全ての府県で水産試験場を設置

地方公設試の広域的な役割

□ 日本周辺海域の観測網

■ 得られたデータは日本周辺の海洋環境の現状評価，予測に活用



水産総合研究センター杉崎氏提供

■ 近年，複数の県で定点観測が廃止

地域漁業で果たしてきた地方公設試の役割

□ 漁海況の分析・情報発信

號六十六百八千三第 報日手 農 日五月三年三十四治明 (可報物便都種三第)

業の關係 漁

昨年以來本縣潮流の關係 漁

昨年本縣沿海に於ける潮流は未曾有の變調を呈し爲めに氣温にまで影響を及ぼし本年一月初旬に至るまで殆ど例年の降雪を見ず爾の正月を迎へたるの事實は讀者の全頭未だ新なる所なるべし之れを脱後の本縣沿海に近づき來りたる結果なりと爲し且つ其之れが本縣漁業上の變動を與へたること就き當業者の語、所によれば左の如し

昨年には常、脱後のみ來り爲めに水温極めて高く隨、沿海に回遊する魚族も脱後に生棲するもの多く寒流によりて秋冬の候北方より來遊すべき鮭、柔魚、鰯等は稀有の不漁にして常、脱後にのみ生息して本縣沿海に容易に見ざるナツラ、ノドナバ等の漁獲量、福來の大漁の遅くまで來遊ありたるのみならず屢々建網等にて漁獲され其不漁なりし鮭、柔魚にありては北方に垂るに隨ひ其不漁の度を漸減したるは本縣に於ける事實なり然るに昨年中カムチャツカ、ナガレンの北海に於ける鮭族は非常なる大漁にして東京函館方面の帆船が北海に於ける漁獲鮭を満載し來り本縣各地に寄港して販賣したること及萬朝報社の萬船社が鮭の取引を爲したる等皆な其大漁なりしことを證明する實なり、以上の事實は一は脱後の本縣に近づきたることの例証となり一は爲る北海方面の漁業に甚影響したることを示すものなり

漁況

氣候と海況

- 大漁: サワラ, マサバ, ソウダガツオ, カツオ
- 不良: サケ

地域漁業で地方公設試の果たしてきた役割

- 日本の漁業⇒複雑で変化に富む海洋環境
 - 多様な水産資源を多様な漁法で漁獲



公
設
試

- 現場に密接に結びついた多様な研究
 - 調査船による観測
 - 現場での実態把握
 - 漁海況予測
 - 資源管理技術の導入

地方公設試の役割

□ 宇田道隆(1982) 海と漁の伝承

■ 日本の漁業

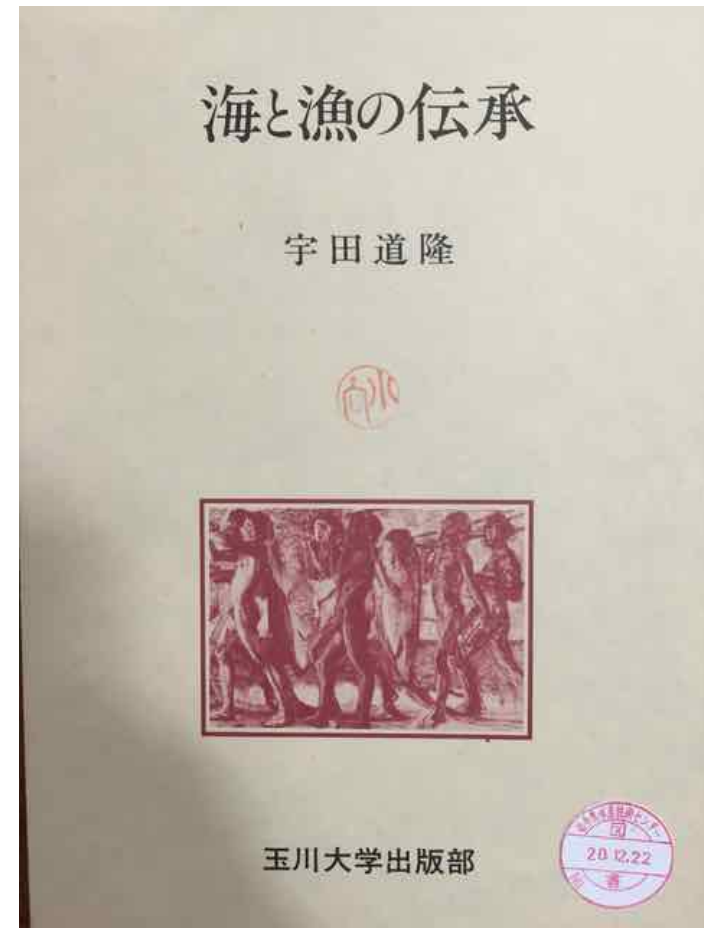
古来漁民の父祖伝来による知恵と技能・努力

伝承の継承→多くの場所で消滅の危機

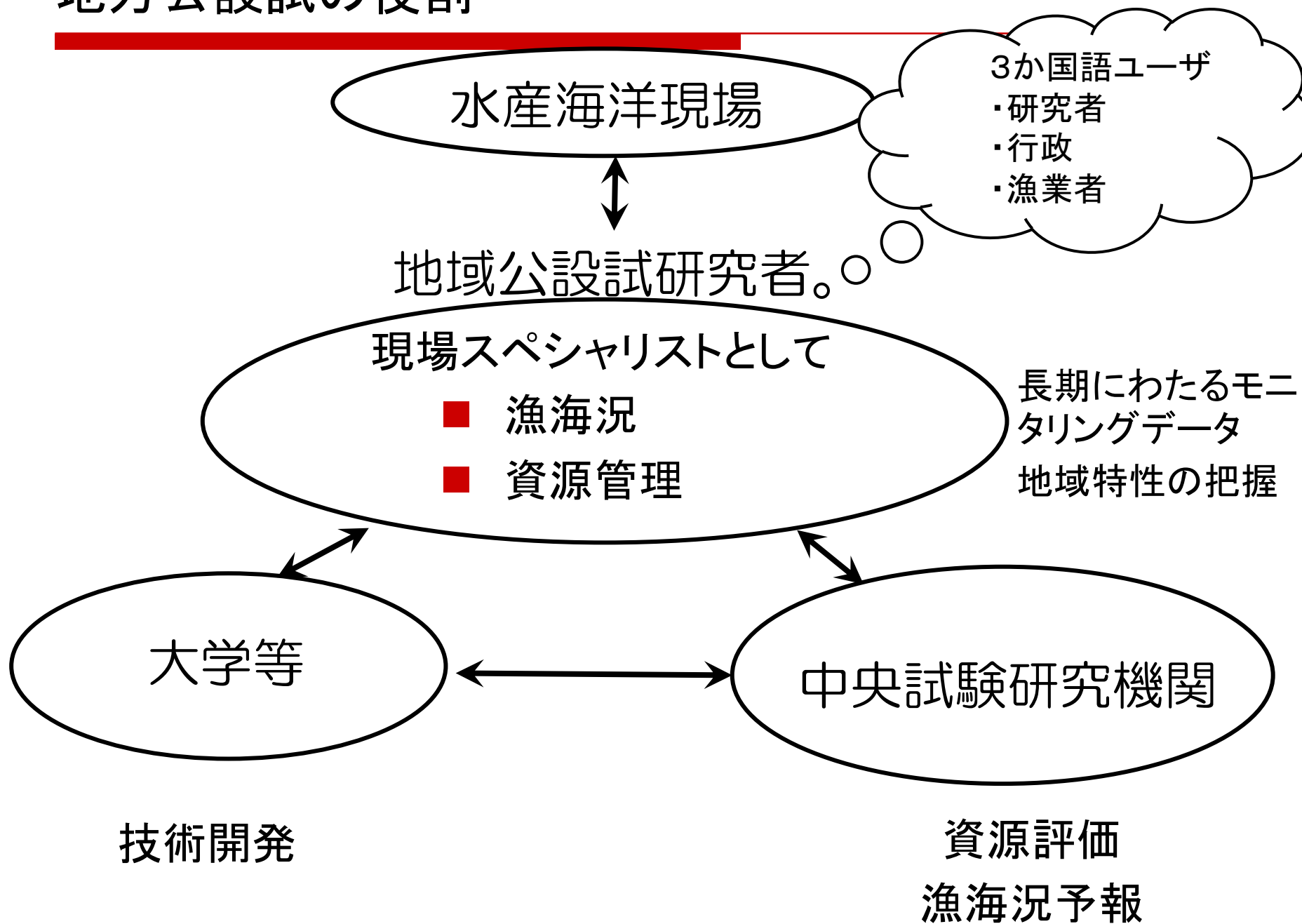
記録・科学的な裏付けの必要性

フィードバック 

地域に根ざした試験研究



地方公設試の役割



現状と課題

- 地方公設試験設立～
- 国が方向性

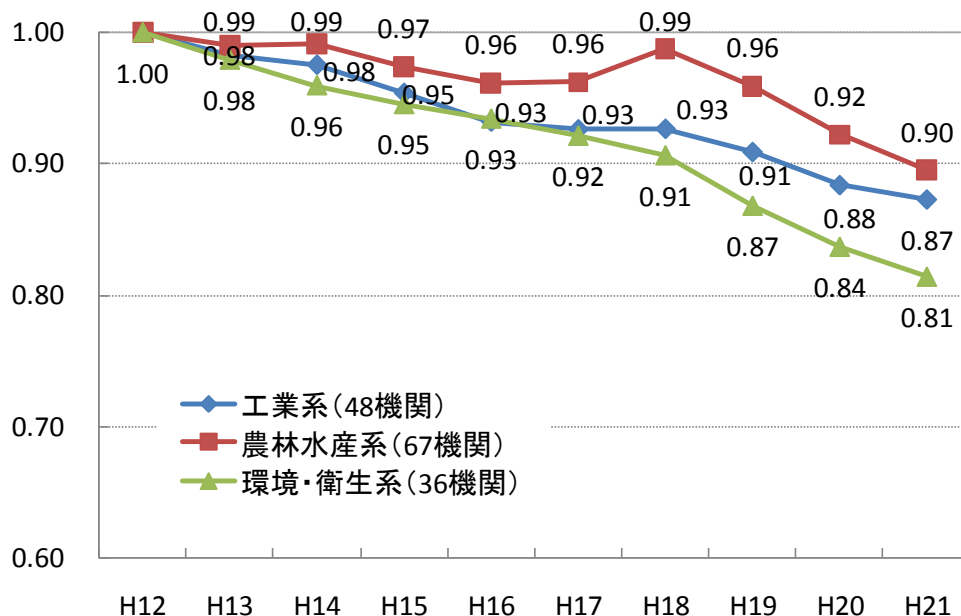


各自治体の水産に対する重要度

自治体間で試験・研究体制に差

技術系職員数

調査船の代船建造



地域イノベーション創出のための公設試験研究機関の役割等に関する調査報告書(全日本地域研究交流協会, 2011)

- 人事異動による人材の流動化
- 予算削減・成果主義⇒ 現場での継続したモニタリングに影響

開催趣旨

現状

- 意外と他地域のことを知らない
- 他地域の情報を得る機会は意外と少ない
- 活用されずに眠っているデータも多い

各地の現場で活躍する研究者からの事例紹介

- 現場掌握術
- 現場からの信頼を得る取り組み



ねらい

- 横の連携強化
- 次世代の現場で活躍する人材の育成
- 共同研究の可能性

予定している話題

- 佐野 稔(道総研稚内水試)
 - 宗谷地区の新しい暦、宗谷岬沖潮流カレンダー
- 後藤友明(岩手県水技セ)
 - 漁業無線を活用した調査結果の現場への情報提供
- 辻 俊宏(石川県水総セ)
 - 急潮情報の発行
- 石井光廣(千葉県水総研セ)
 - 一都五県漁海況／東京湾での漁業者との共同調査
- 市野川桃子(水産研究・教育機構 中央水研)
 - ナマコ資源評価に関する連携
- 藤原邦浩(水産研究・教育機構日水研)
 - 漁業者と共同で行う小底の漁具改良
- 渡慶次 力(宮崎水試)
 - 漁船情報を活用した海況情報提供
- 宍道弘敏(鹿児島水技開セ)
 - 鹿児島県の漁業現場に密着した研究: 地方水試の役割
- 秋田雄一
 - ウミンチュと共に守る八重山の「イマイユ」